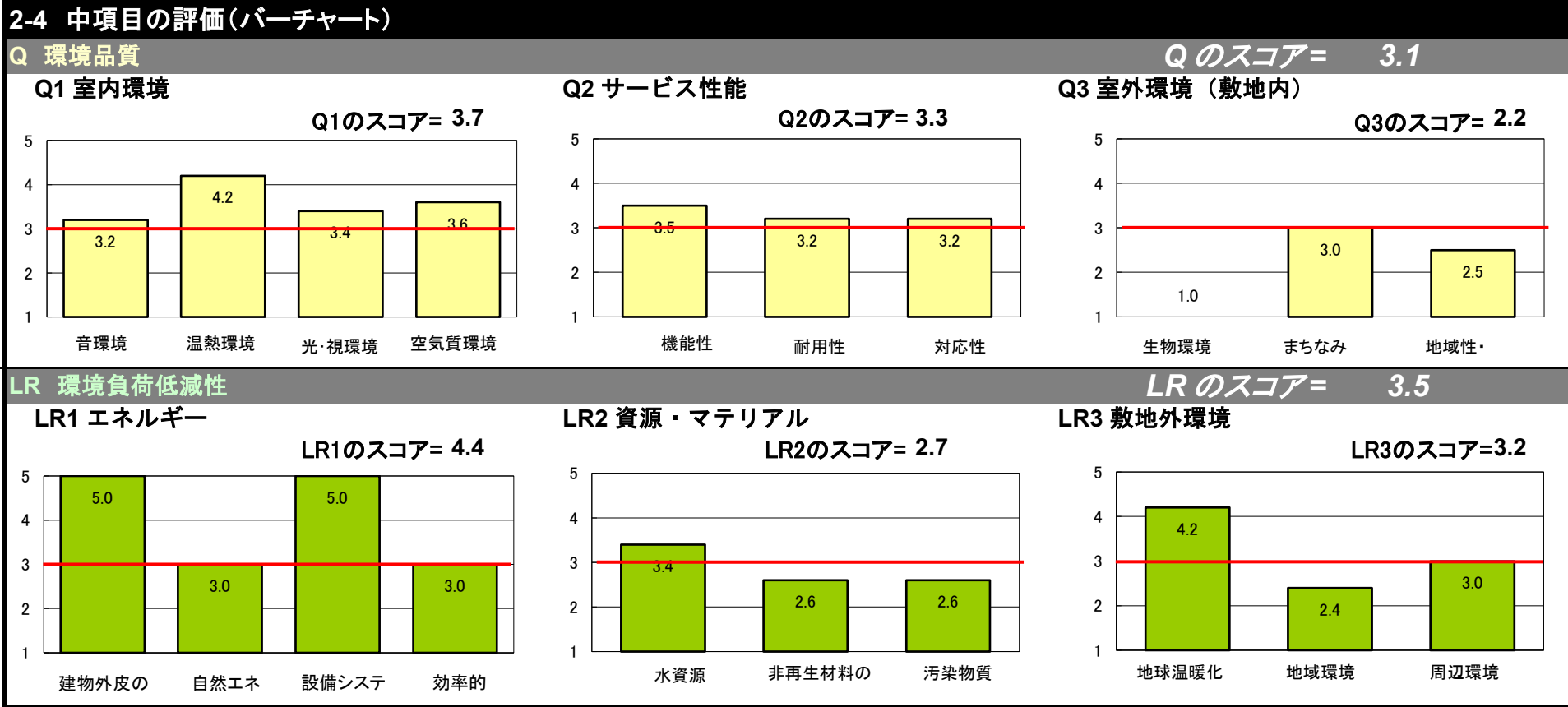
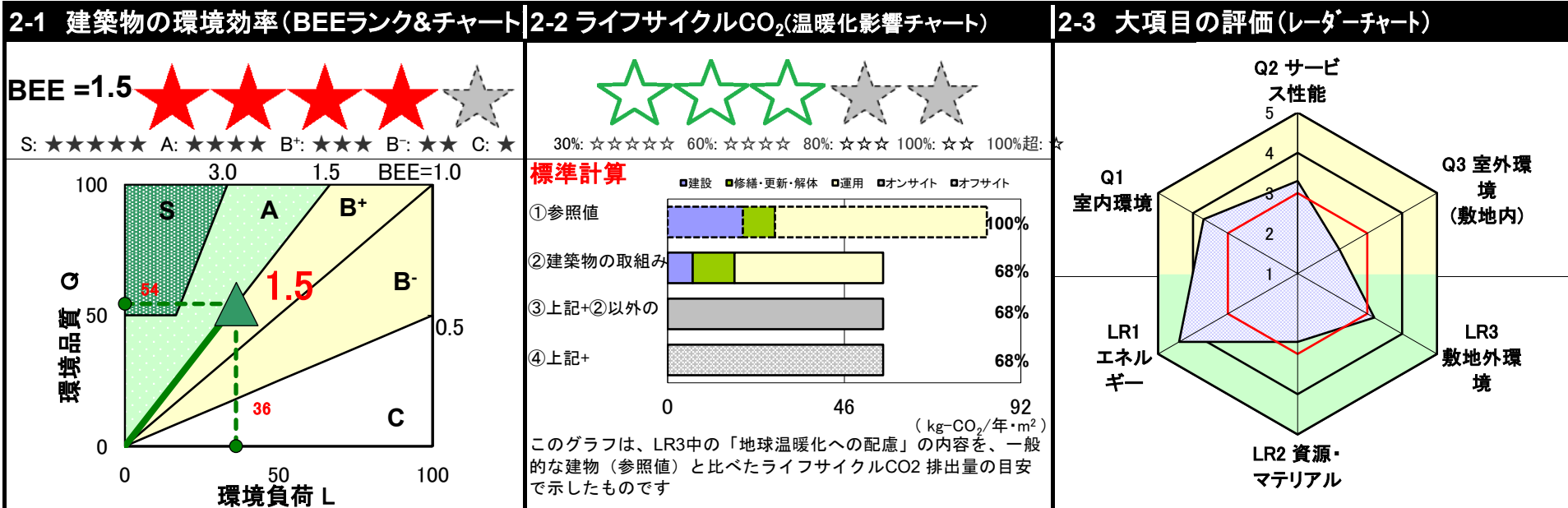


CASBEE®横浜 | 評価結果 | 5-039



■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト：CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ミオカステロセンター南Ⅳ	階数	地上7F
建設地	横浜市都筑区茅ヶ崎東三丁目26番5(地名地番)	構造	RC造
用途地域	準住居地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年5月 竣工	評価の実施日	2023年7月7日
敷地面積	775 m ²	作成者	山田建設(株)一級建築士事務所 竹井
建築面積	404 m ²	確認日	2023年11月24日
延床面積	2,059 m ²	確認者	山田建設(株)一級建築士事務所 竹井



3 設計上の配慮事項		その他
総合 構造の安定に加え、高効率の設備機器や有害物質の少ない資材を採用し、居住者にとって快適に生活できる計画とした。		
Q1 室内環境 バリアフリー計画や清掃作業を想定した計画に配慮した。また、空気質汚染を回避するための建築材料を採用し、遮音性能や断熱性能にも配慮した。	Q2 サービス性能 構造躯体の耐用年数を劣化対策等級3とし、給排水管の更新性にも配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 外観は地域のイメージに沿った明るい色調とし、植栽を多く設け環境に配慮した。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級4以上の計画とした。	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を採用し、部材の再利用可能性にも配慮した。	LR3 敷地外環境 建築設備からの排熱量の低減に努め、地球温暖化への配慮を行った。また適切な量の自転車置場(バイク置場を含む)及を確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 ミオカステローセンター南Ⅳ

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 36 %削減



一次エネルギー消費量基準

適合

外皮基準

適合

受付日

2023年7月10日

省エネ基準
(10%削減)

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

E① 断熱等性能等級4相当の計画とした。

E③ 省エネ基準のBEI値に適合する計画とした。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

5

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4を超(相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

W⑥全ての居室で必要換気量を確保している。また、下地材等は特定建材及びその他のF☆☆☆☆等級相当以上の材料で施工。

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

R⑮ 躯体材料の耐用年数を劣化対策等級3相当とし、空調・給排水配管には期待耐用年数が40年以上の管材を採用。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2022年版v.1.1

ミオカステーロセンター南IV

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質					-		-	3.1
Q1 室内環境					0.40		-	3.7
1 音環境				3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50	-
1.2 遮音				3.0	0.50	3.6	0.50	-
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	5.0	0.30	-
2 界床遮音性能				-	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境				1.0	0.35	5.0	1.00	4.2
2.1 室温制御				1.0	0.50	5.0	1.00	-
1 室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	1.0	0.63	-	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心		⑨温熱環境 ⑤外皮性能	1.0	0.38	5.0	1.00	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	1.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	1.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境				2.7	0.25	3.5	1.00	3.4
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.1	0.50	-
1 昼光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	5.0	0.60	4.0	0.50	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	5.0	0.30	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.50	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	1.0	1.00	3.0	1.00	-
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	-
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				3.4	0.40	3.6	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	4.0	1.00	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	1.00	3.0	0.50	-
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性	5.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防災		⑮信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				-	-	3.6	0.50	-
1 階高のゆとり	-			-	-	4.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ	-			-	-	3.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	-



CASBEE横浜2022年版v.1.1

ミオカステロセンター南IV

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅> <集合住宅>		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑩地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	④敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	-	-	5.0
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	-	2.7
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	-	-	3.4
1.1	節水			4.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				2.6	0.60	-	-	-	-	2.6
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.6	0.20	-	-	-	-	2.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	-	-	-
1	消火剤			2.0	0.50	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	-	-	-
3	冷媒			-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				4.2	0.33	-	-	-	-	4.2
2 地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-	-	-	2.4
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-	-
3	交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	騒音			3.0	1.00	-	-	-	-	-
2	振動			-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-	-
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-	-
3.3	光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-	-
上記以外の重点項目					-	-	-	-	-	-
<事務用途>					-	-	-	-	-	-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-	-	-	-
<住宅用途>					-	-	-	-	-	-
健康と安心					-	-	-	-	-	-
1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	5.0	-	-	-	-	-	-
2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	5.0	-	-	-	-	-	-
3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	4.0	-	-	-	-	-	-